

Novell eDirectory™ 用の Identity Manager ドライバ

3.0

www.novell.com

実装ガイド

2006 年 5 月 8 日

N

Novell®

保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書に起因する結果に関して、いかなる表示も行いません。また、本書の商品性、および特定用途への適合性について、いかなる黙示の保証も行いません。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの使用に起因する結果に関して、いかなる表示も行いません。また、商品性、および特定目的への適合性について、いかなる黙示の保証も行いません。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、取引対象製品の輸出、再輸出または輸入に関し、国内外の輸出管理規定に従うこと、および必要な許可、または分類に従うものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。本ソフトウェアの輸出については、www.novell.co.jp/info/exports/expmtx.html または www.novell.com/ja-jp/company/exports/ もあわせてご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに對し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2000-2005 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複製、写真複写、検索システムへの登録、転載することは、その形態を問わず禁止します。

本書に記載された製品で使用されている技術に関連する知的所有権は、弊社に帰属します。これらの知的所有権は、<http://www.novell.com/company/legal/patents/> に記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル：本製品とその他の Novell 製品のオンラインマニュアルにアクセスする場合や、アップデート版を入手する場合は、www.novell.com/ja-jp/documentation をご覧ください。

Novell の商標

Novell の商標の一覧については、「[商標 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

第三者の商標

第三者の商標は、それぞれの所有者に属します。

目次

このガイドについて	3
1 概要	5
1.1 用語の変更	5
1.2 主要な用語	5
2 eDirectory 用の Identity Manager ドライバのインストール	7
2.1 ドライバシムをインストールする場所	7
2.2 ドライバの前提条件	7
2.3 Identity Manager 3 へのアップグレード	7
2.4 ドライバシムのインストール	7
2.4.1 Windows へのインストール	8
2.4.2 NetWare へのインストール	10
2.4.3 Linux、Solaris、または AIX へのインストール	12
2.5 ドライバを有効にする	14
3 eDirectory 用の Identity Manager ドライバのアップグレード	15
3.1 アップグレードの準備	15
3.2 ドライバシムのアップグレード	15
3.3 ドライバ環境設定のアップグレード	16
3.4 eDirectory ドライバのアップグレードに関する問題	16
4 サンプルのドライバ環境設定ファイル	19
4.1 サンプルのドライバ環境設定のインポート	19
4.1.1 iManager を使用したインポート	19
4.1.2 Identity Manager の Designer を使用したインポート	21
4.2 安全な Identity Manager データ転送の設定	21
4.2.1 eDirectory ドライバセキュリティの理解	21
4.2.2 KMO の設定	22
4.3 同期する属性	23
4.4 パスワード同期	24
5 ドライバの設定	27
5.1 ドライバオブジェクトのプロパティの設定	27
5.1.1 認証パラメータ	28
5.2 フィルタの設定	29
5.3 発行者チャネルのルールの設定	30
5.4 ドライバオブジェクトパスワードの使用	30
5.5 オブジェクトの移行またはコピー	31
A 最新のマニュアル	33
A.1 2006 年 5 月 8 日	33

このガイドについて

このガイドでは、eDirectory™ 用の Identity Manager ドライバのインストール方法および設定方法について説明します。

- ◆ 5 ページの第 1 章「概要」
- ◆ 7 ページの第 2 章「eDirectory 用の Identity Manager ドライバのインストール」
- ◆ 15 ページの第 3 章「eDirectory 用の Identity Manager ドライバのアップグレード」
- ◆ 19 ページの第 4 章「サンプルのドライバ環境設定ファイル」
- ◆ 27 ページの第 5 章「ドライバの設定」

対象読者

このガイドは、eDirectory 用の Identity Manager ドライバを使用する Novell® eDirectory および Identity Manager の管理者を対象にしています。

ご意見やご要望

このマニュアルおよび本製品に含まれるその他のマニュアルに関するご意見やご要望をお聞かせください。オンラインヘルプの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または www.novell.com/documentation/feedback.html にアクセスして、ご意見をお寄せください。

最新のマニュアル

このマニュアルの最新バージョンについては、[Novel 1 マニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/ja-jp/documentation\)](http://www.novell.com/ja-jp/documentation) の Identity Manager ドライバのセクションで eDirectory 用の Identity Manager ドライバを参照してください。

その他のマニュアル

Identity Manager および Identity Manager の他のドライバについては、[Novel 1 マニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/ja-jp/documentation\)](http://www.novell.com/ja-jp/documentation) を参照してください。

表記規則

本マニュアルでは、手順に含まれる複数の操作および相互参照パス内の項目を分けるために、大なり記号 (>) を使用しています。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は第三者の商標を示します。

概要

eDirectory™ 用の Identity Manager ドライバは、異なる eDirectory ツリー間でオブジェクトおよび属性を同期します。

このドライバは、その他のすべての Identity Manager ドライバの中で独特のドライバです。eDirectory ツリー間でデータを同期化するので、ツリー自体に1つずつ、合計2つのドライバを常にインストールすることになります。一方のツリーのドライバは、他方のツリーのドライバと通信します。

たとえば、ツリー A の発行者チャンネルは、ツリー B の購読者チャンネルと通信し、逆に、ツリー B の発行者チャンネルは、ツリー A の購読者チャンネルと通信します。したがって、ドライバのインストールと環境設定は、ツリー A の eDirectory ドライバで1回、ツリー B のドライバで1回の合わせて2回行う必要があります。

Identity Manager の新機能については、『[Identity Manager 3.0 インストールガイド](#)』の「[Identity Manager 3 の新機能](#)」を参照してください。

1.1 用語の変更

次の用語が、旧リリースから変わりました。

表 1-1 用語の変更

旧用語	新用語
DirXML®	Identity Manager
DirXML サーバ	メタディレクトリサーバ
DirXML エンジン	メタディレクトリエンジン
eDirectory	アイデンティティポールド (eDirectory 属性またはクラスを参照する場合は除く)

1.2 主要な用語

ドライバシム。Identity Manager によって直接ロードされる Java ファイル (NdsToNds.jar)。eDirectory 用の Identity Manager ドライバからアイデンティティポールドに送信されるイベントの変更を伝えたり、アイデンティティポールドから eDirectory 用の Identity Manager ドライバに変更を伝えたり、アイデンティティポールドとアイデンティティポールドドライバオブジェクトを接続するリンクとして動作したりします。

ドライバ。アイデンティティポールドとドライバシム間のコネクタとして機能するポリシー、フィルタ、オブジェクトのセット。

このドライバによって、アプリケーションがディレクトリにイベントを発行したり、ディレクトリからイベントを購読したりできます。また、ドライバはディレクトリとアプリケーション間のデータを同期します。

メタディレクトリエンジンとアイデンティティポータル間の接続を確立するには、ドライバの環境設定および接続パラメータ、ポリシー、およびフィルタの値を指定します。

ドライバオブジェクト。Identity Manager を実行しているアイデンティティポータルにアプリケーションを接続するチャンネル、ポリシー、ルール、およびフィルタのコレクション。

各ドライバは、異なるタスクを実行します。ポリシー、ルール、フィルタは、データを操作してそれらのタスクを実行する方法をドライバに伝えます。

ドライバオブジェクトは、ドライバの環境設定、ポリシー、フィルタについての情報を表示します。このオブジェクトを使用すると、ドライバを管理したり、ドライバシムパラメータの eDirectory 管理を行ったりできます。

アイデンティティポータル。アプリケーションおよびディレクトリがその変更を発行するハブ。変更を受け取ったアイデンティティポータルは、それを購読しているアプリケーションおよびディレクトリに変更内容を送信します。この結果、主なデータフローが2つ（発行者チャンネルおよび購読者チャンネル）できます。

eDirectory 用の Identity Manager ドライバのインストール

2

- [7 ページのセクション 2.1 「ドライバシムをインストールする場所」](#)
- [7 ページのセクション 2.2 「ドライバの前提条件」](#)
- [7 ページのセクション 2.3 「Identity Manager 3 へのアップグレード」](#)
- [7 ページのセクション 2.4 「ドライバシムのインストール」](#)
- [14 ページのセクション 2.5 「ドライバを有効にする」](#)

2.1 ドライバシムをインストールする場所

Identity Manager および eDirectory™ ドライバシムを、同期する両方の Novell® eDirectory サーバおよびそのツリーにインストールします。一方のツリーのドライバは他方のツリーのドライバと直接通信するので、このドライバでは、リモートローダ技術は使用されません。

ドライバは、Novell Certificate Server™ および CA(認証局) を使用してデータのセキュリティを確保します。ツリー間のすべてのトランザクションは SSL 技術で保護されます。データセキュリティについては、[21 ページのセクション 4.2 「安全な Identity Manager データ転送の設定」](#) を参照してください。

2.2 ドライバの前提条件

- Identity Manager の要件。『[Identity Manager 3.0 インストールガイド](#)』を参照してください。
- eDirectory ドライバをホストする各サーバで Novell Certificate Server が稼動している。
- SSL 暗号を機能させるための CA(認証局) がある。

2.3 Identity Manager 3 へのアップグレード

Identity Manager のインストール中に、メタディレクトリエンジンをインストールすると同時に、eDirectory 用のドライバを (他の Identity Manager ドライバとともに) インストールできます。『[Identity Manager 3.0 インストールガイド](#)』を参照してください。DirXML 1.1a または Identity Manager 2 から Identity Manager 3 にアップグレードできます。

2.4 ドライバシムのインストール

メタディレクトリエンジンをインストールすると同時に、eDirectory 用の Identity Manager ドライバシムを (他の Identity Manager ドライバとともに) インストールできます。

メタディレクトリエンジンをインストールした後で、ドライバを個別にインストールすることもできます。この節では、すでにサーバにメタディレクトリエンジン (多くの場合、その他のドライバも含む) がインストールされていて、eDirectory ドライバのみインストールが必要である場合を想定しています。

CDがない場合は、プラットフォームに必要なファイル(たとえば、Identity_Manager_3_Linux_NW_Win.iso)をダウンロードし、CDを作成します。ダウンロードイメージは、[ノベル用ダウンロード \(http://download.novell.com/index.jsp\)](http://download.novell.com/index.jsp) から入手できます。

重要: 2つの別々のアイデンティティボールド (eDirectory) サーバにドライバをインストールするので、個々のサーバで手順を完了する必要があります。

インストール中に、NdsToNds.jar が適切なディレクトリにコピーされます。次の表では、この場所をプラットフォームごとに示しています。

オペレーティングシステム	ディレクトリ
Linux*、Solaris*、または AIX*	/usr/lib/dirxml/classes (eDirectory 8.8 の場合 : opt/novell/eDirectory/lib/dirxml/classes)
NetWare®	sys:system\lib
Windows* NT*/2000	デフォルトは、novell\nds ですが、任意のディレクトリを指定できます。

インストールプログラムが終了したら、[21 ページのセクション 4.2 「安全な Identity Manager データ転送の設定」](#) の説明に従ってセキュリティを設定します。

2.4.1 Windows へのインストール

- 1 Identity Manager 3.0 CD からインストールプログラムを実行します。

インストールプログラムが自動的に起動されない場合は、\nt\install.exe を実行できません。

- 2 [よろこぞ] ダイアログボックスで、[次へ] をクリックして、使用許諾契約書に同意します。
- 3 最初の [Identity Manager の概要] ダイアログボックスで、情報を確認して、[次へ] をクリックします。

このダイアログボックスには、次の情報が表示されます。

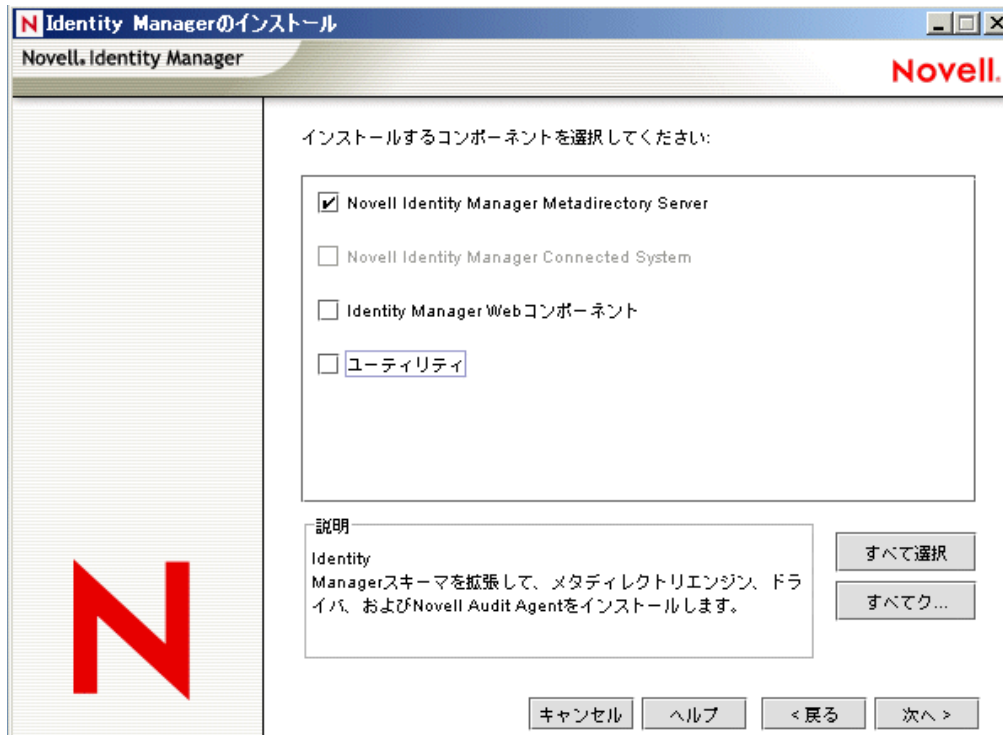
- ◆ メタディレクトリサーバ
- ◆ 接続先サーバシステム

- 4 2番目の [Identity Manager の概要] ダイアログボックスで、情報を確認して、[次へ] をクリックします。

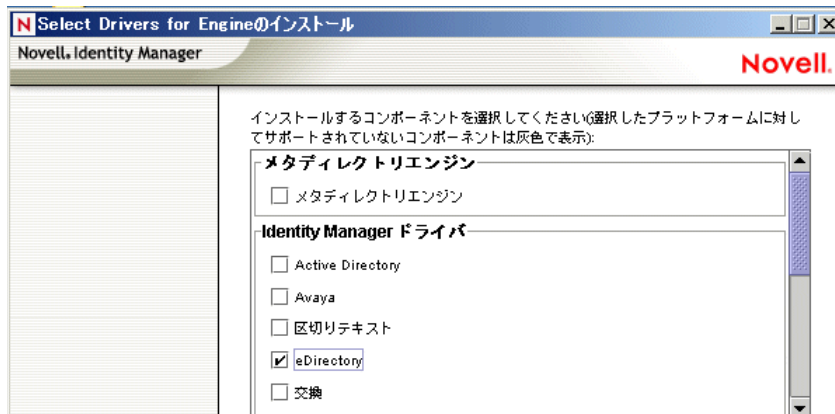
このダイアログボックスには、次の情報が表示されます。

- ◆ Web ベースの管理サーバ
- ◆ Identity Manager ユーティリティ

- 5 [インストールするコンポーネントを選択してください] ダイアログボックスで、[メタディレクトリサーバ] だけを選択し、[次へ] をクリックします。



- 6 エンジンインストールのドライバを選択するダイアログボックスで、[eDirectory] だけを選択し、[次へ] をクリックします。



- 7 [Identity Manager アップグレードの警告] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- 8 [概要] ダイアログボックスで、選択したオプションを確認して、[終了] をクリックします。
- 9 [インストールが完了しました] ダイアログボックスで、[閉じる] をクリックします。

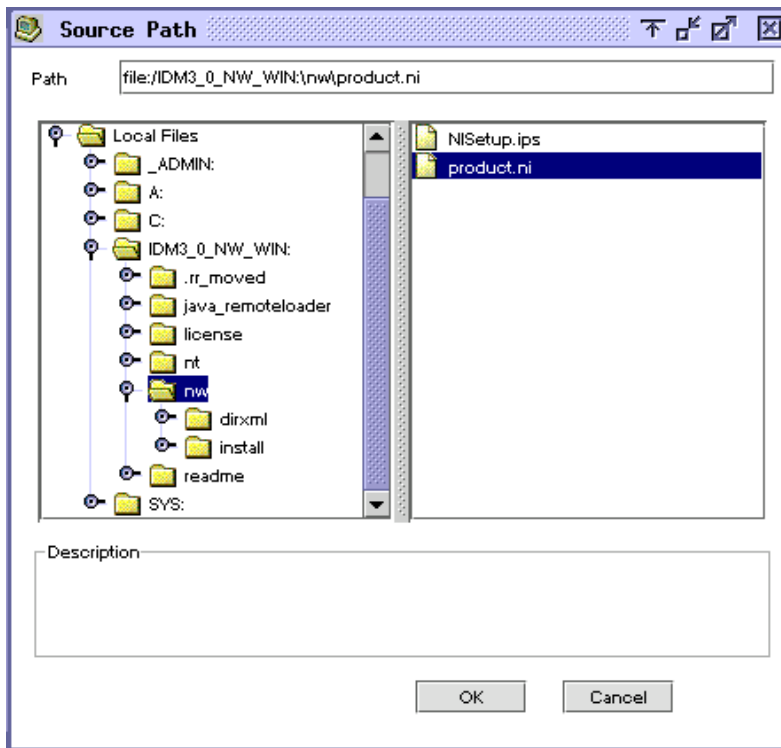
インストール後、27 ページの「ドライバの設定」にある説明に従ってドライバを設定します。

2.4.2 NetWare へのインストール

- 1 NetWare サーバで、Identity Manager CD をドライブに挿入して、CD をボリュームとしてマウントします。

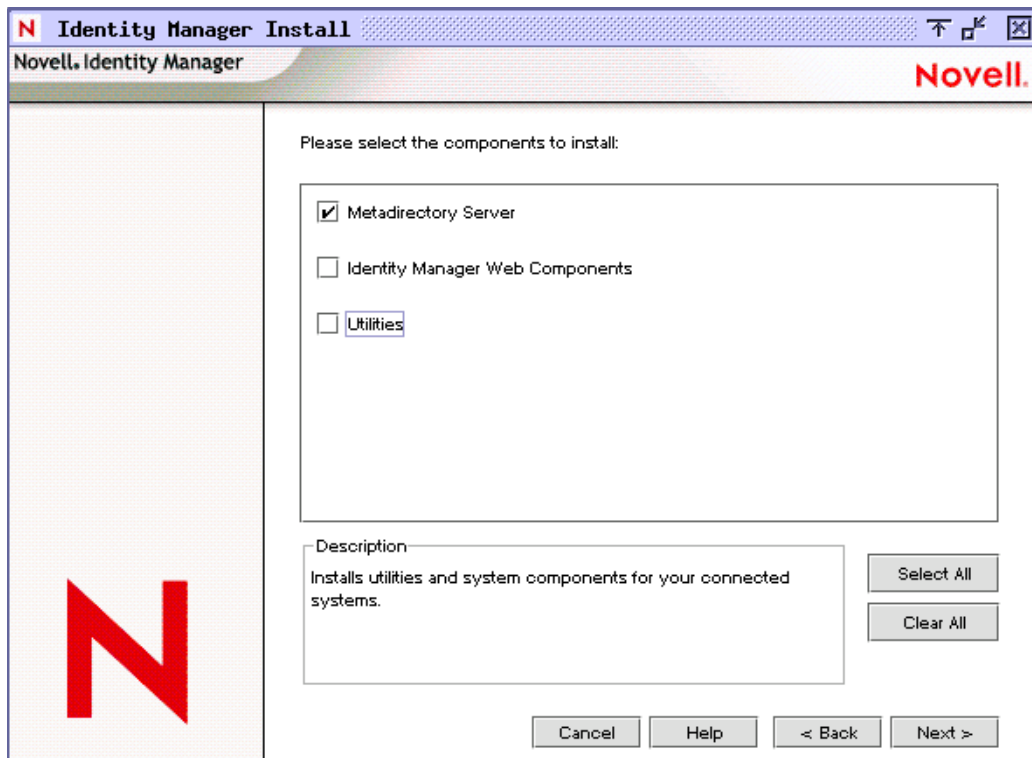
CD をマウントするには、「m cdrom」と入力します。

- 2 (条件付き) グラフィカルユーティリティがロードされない場合は、「startx」と入力してユーティリティをロードします。
- 3 グラフィカルユーティリティで、[Novell] アイコンをクリックして、[インストール] をクリックします。
- 4 [インストール済みの製品] ダイアログボックスで、[追加] をクリックします。
- 5 [ソースパス] ダイアログボックスで、product.ni ファイルを参照して選択します。



- 5a あらかじめマウントしていた CD ボリューム (Identity_Manager_3_Linux_NW_WIN) を参照して展開します。
- 5b nw ディレクトリを展開し、product.ni を選択して、[OK] を 2 回クリックします。
- 6 [Novell Identity Manager 3.0 のインストールへようこそ] ダイアログボックスで、[次へ] をクリックして、使用許諾契約に同意します。

- 7 [Identity Manager のインストール] ダイアログボックスで、[メタディレクトリサーバ] だけを選択します。

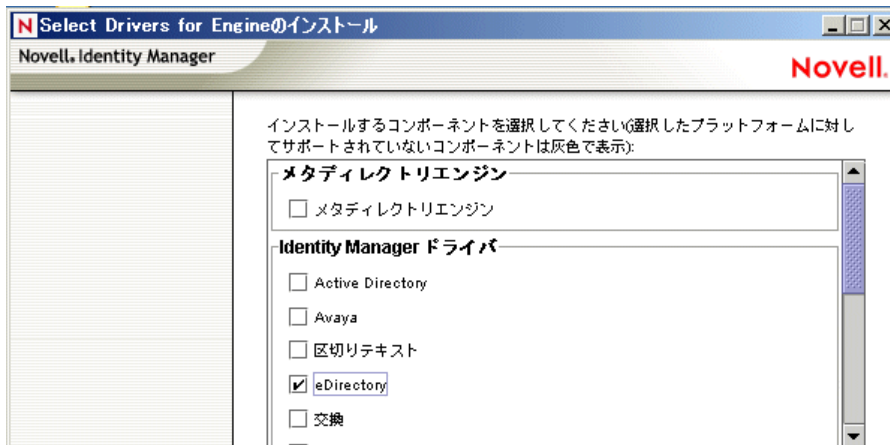


次の項目を選択解除します。

- ◆ Identity Manager Web コンポーネント
- ◆ ユーティリティ

- 8 [次へ] をクリックします。

- 9 エンジンインストールのドライバを選択するダイアログボックスで、[eDirectory] だけを選択します。



次の項目を選択解除します。

- ◆ メタディレクトリエンジン
- ◆ eDirectory 以外のすべてのドライバ

- 10 [Identity Manager アップグレードの警告] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

このダイアログボックスで、90 日以内にドライバのライセンスを有効にすることを促されます。

- 11 [概要] ページで、選択したオプションを確認して、[終了] をクリックします。

- 12 [閉じる] をクリックします。

インストール後、27 ページの「**ドライバの設定**」にある説明に従ってドライバを設定します。

2.4.3 Linux、Solaris、または AIX へのインストール

デフォルトでは、eDirectory 用の Identity Manager ドライバは、メタディレクトリエンジンをインストールするときにインストールされます。この節には、メタディレクトリエンジンのインストール時にドライバがインストールされなかった場合のドライバのインストール方法が記載されています。

インストールプログラムを進めていくときに、「previous」と入力すれば前のセクション(画面)に戻ることができます。

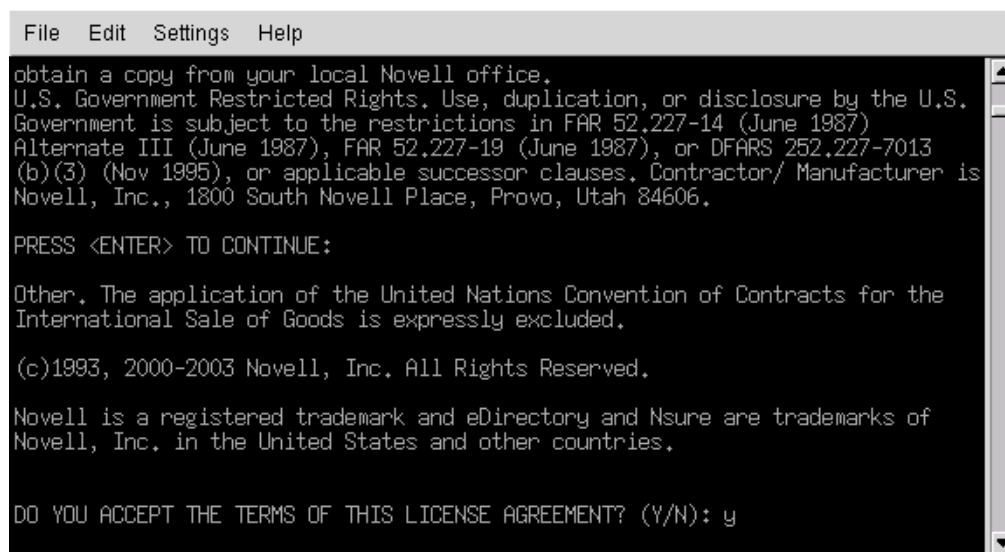
- 1 端末セッションで、root としてログインします。
- 2 Identity Manager CD をドライブに挿入してマウントします。

通常、CD は自動的にマウントされます。次の表は、CD を手動でマウントする例を示しています。入力する実際のコマンドは、システムの構成およびオペレーティングシステムによって異なります。

プラットフォーム	入力するコマンド
AIX* または Red Hat*	mount /mnt/cdrom、次に <Enter> キーを押す
Solaris	mount /cdrom、次に <Enter> キーを押す
SUSE®	mount /media/cdrom、次に <Enter> キーを押す。または mount /media/dvd、次に <Enter> キーを押す

- 3 setup ディレクトリに移動します。
たとえば、`mount point/platform/setup` に移動します。
 - ◆ *mount point* は、CD または DVD がマウントされている場所です。
 - ◆ *platform* は、プラットフォームの名前 (solaris、linux、または aix) です。
- 4 インストールプログラムを実行します。
たとえば、Linux の場合は、「./dirxml_linux.bin」と入力します。
- 5 [イントロダクション] セクションで、<Enter> キーを押します。
- 6 使用許諾契約に同意します。

[DO YOU ACCEPT THE TERMS OF THIS LICENSE AGREEMENT (この使用許諾契約書の条項に同意しますか?)]が表示されるまで <Enter> キーを押し、「y」と入力して、<Enter> キーを押します。



```
File Edit Settings Help
obtain a copy from your local Novell office.
U.S. Government Restricted Rights. Use, duplication, or disclosure by the U.S.
Government is subject to the restrictions in FAR 52.227-14 (June 1987)
Alternate III (June 1987), FAR 52.227-19 (June 1987), or DFARS 252.227-7013
(b)(3) (Nov 1995), or applicable successor clauses. Contractor/ Manufacturer is
Novell, Inc., 1800 South Novell Place, Provo, Utah 84606.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:

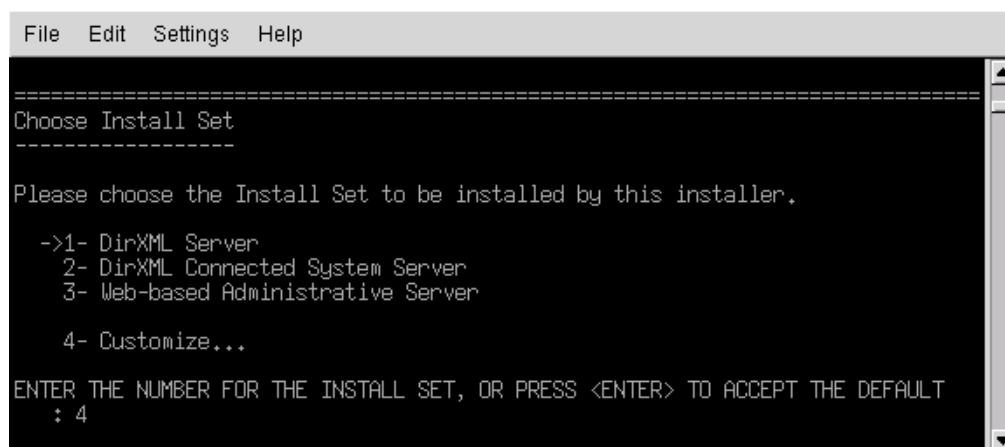
Other. The application of the United Nations Convention of Contracts for the
International Sale of Goods is expressly excluded.

(c)1993, 2000-2003 Novell, Inc. All Rights Reserved.

Novell is a registered trademark and eDirectory and Nsure are trademarks of
Novell, Inc. in the United States and other countries.

DO YOU ACCEPT THE TERMS OF THIS LICENSE AGREEMENT? (Y/N): y
```

- 7 [インストールセットの選択] セクションで、[カスタマイズ] オプションを選択します。
「4」と入力して、<Enter> キーを押します。



```
File Edit Settings Help
=====
Choose Install Set
-----

Please choose the Install Set to be installed by this installer.

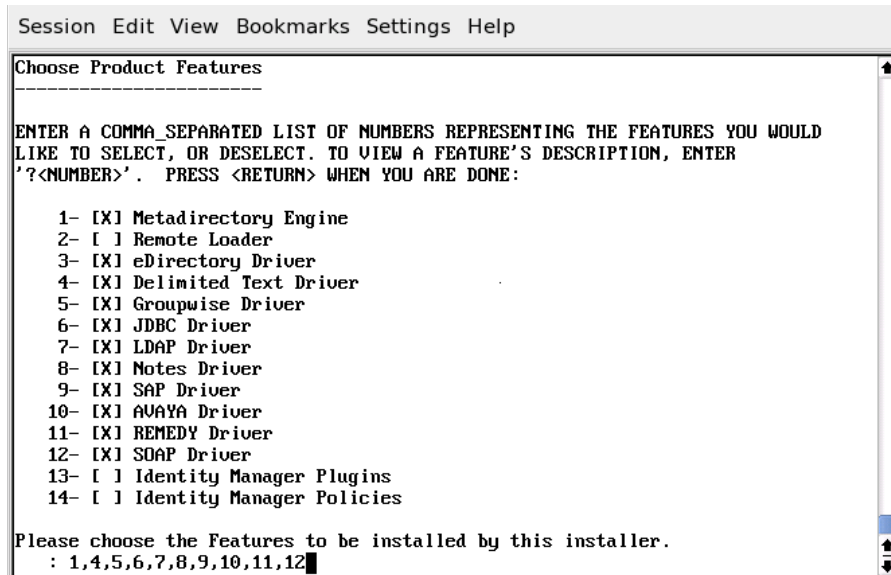
->1- DirXML Server
  2- DirXML Connected System Server
  3- Web-based Administrative Server

  4- Customize...

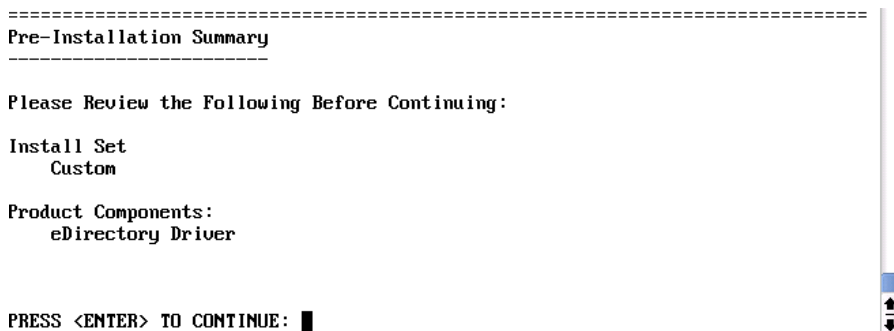
ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT
: 4
```

- 8 [Choose Product Features (製品の機能の選択)] セクションで、[eDirectory] を除くすべての機能を選択解除して、<Enter> キーを押します。

機能を選択解除するには、その番号を入力します。複数の機能を選択解除するには、各機能の間にカンマを入力します。



- 9 [インストール前の概要] セクションで、オプションを確認します。



前のセクションに戻るには、「previous」と入力して、<Enter> キーを押します。続行するには、<Enter> キーを押します。

- 10 インストールが完了したら、<Enter> キーを押してインストールを終了します。

インストール後、27 ページの「ドライバの設定」にある説明に従ってドライバを設定します。

2.5 ドライバを有効にする

インストール後 90 日以内にドライバを有効にします。そうしなければ、ドライバは実行を停止します。

有効にする方法については、『*Identity Manager 3.0 インストールガイド*』の「Novell Identity Manager 製品を有効にする」を参照してください。

eDirectory 用の Identity Manager ドライバのアップグレード

3

- 15 ページの「アップグレードの準備」
- 15 ページの「ドライバシムのアップグレード」
- 16 ページの「ドライバ環境設定のアップグレード」
- 16 ページの「eDirectory ドライバのアップグレードに関する問題」

3.1 アップグレードの準備

使用中のドライバのバージョンについてのすべての TID および製品の更新を確認します。

ドライバシムおよび環境設定に最新の修正が適用されていれば、通常は、既存のドライバ環境設定を変更しなくても新しいドライバシムは機能します。

3.2 ドライバシムのアップグレード

1. 実行中のバージョンに対するパッチをすべて適用してドライバを更新していることを確認します。

アップグレードの問題を最小限にするために、この手順をすべてのドライバで実行することをお勧めします。

- 2 新しいドライバシムをインストールします。

これは、メタディレクトリエンジンのインストールと同時に、またはその後に実行できます。7 ページの「[ドライバシムのインストール](#)」を参照してください。

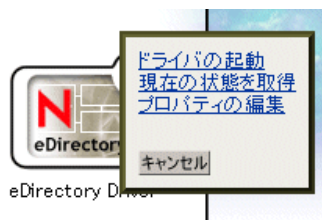
アップグレードすると、既存のドライバシムが新しいドライバシムで置き換えられますが、前のドライバの環境設定はそのまま使用されます。

- 3 シムのインストール後に、ドライバを再起動します。

3a iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。

3b ドライバが存在するドライバセットを参照します。

3c 再起動するドライバを選択し、ステータスアイコンをクリックし、[ドライバの起動] を選択します。



- 4 (条件付き) Identity Manager アクティベーションキーを使用してドライバシムを有効にします。

有効化は、ドライバごとではなくドライバセットごとに1回行います。多くの場合、ドライバセットはすでに有効にされているのでこの手順はスキップできます。

有効にする方法については、『*Identity Manager 3.0 インストールガイド*』の「**Novell Identity Manager 製品を有効にする**」を参照してください。

ドライバシムをインストールしたら、ドライバ環境設定をアップグレードします。16ページの「**ドライバ環境設定のアップグレード**」を参照してください。

3.3 ドライバ環境設定のアップグレード

重要：この節は、DirXML® 1.x からのアップグレードにのみ適用されます。

2つの別々のアイデンティティポータルサーバでドライバをアップグレードするので、サーバごとにアップグレード手順を実行する必要があります。

ドライバシムをインストールしても、既存の環境設定は変更されません。既存の環境設定は、新しいドライバシムでも引き続き使用できます。

ただし、新機能を利用するには、ドライバ環境設定をアップグレードする必要があります。ドライバ環境設定は、既存のドライバ環境設定を新しいサンプル環境設定で置き換えるか、または既存の環境設定を Identity Manager 3 形式に変換してポリシーを追加するかのいずれかで方法でアップグレードします。

- ◆ 既存の環境設定を置き換えるには、既存のドライバオブジェクトに対応した新しいサンプル環境設定をインポートします。

サンプル環境設定には、Identity Manager のパスワード同期および役割ベースエンタイルメントのサポートなどの新機能がすべて含まれています。

- ◆ 新しいIdentity Manager プラグインで既存のドライバ環境設定を編集できるように既存のドライバ環境設定を変換する方法については、『*Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド*』の「**DirXML 1.1a から Identity Manager 形式へのドライバ環境設定のアップグレード**」を参照してください。
- ◆ Identity Manager のパスワード同期機能を既存のドライバ環境設定に追加するには、『*Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド*』の「**パスワード同期をサポートするための、既存のドライバ設定のアップグレード**」を参照してください。

パスワード同期の新しいポリシーは、ユニバーサルパスワードおよび配布パスワードをサポートするためのものです。NDS® のパスワードのみを同期化する予定の場合、ドライバの環境設定にこれらのポリシーを追加しないでください。NDS パスワードは、これらのポリシーではなく、公開鍵および秘密鍵の属性を使用して、同期化されます。

3.4 eDirectory ドライバのアップグレードに関する問題

重要：この節は、DirXML 1.x からのアップグレードにのみ適用されます。

Identity Manager および eDirectory ドライバをアップグレードしているときに、証明書の期限が切れている場合（または2つの証明書のいずれかが期限切れの場合）は、データ同期エラーが発生することがあります。

有効な証明書を保持するサーバにユーザを作成した場合、そのユーザは、無効の証明書を含むサーバとは同期されません。また、**DSTrace** で次のエラーが表示される場合があります。

```
SSL handshake failed, X509_V_CERT_HAS_EXPIRED
```

```
SSL handshake failed, SSL_ERROR_ZERO_RETURN,
```

期限切れの証明書を保持するサーバにユーザを作成した場合でも、有効な証明書のあるサーバとであれば、そのユーザは同期されます。また、**DSTrace** で次のエラーが表示される場合があります。

```
Error: 14094415: SSL Routines: SSL_READ_BYTES: sslv3 alert certificate expired.
```

この問題を解決するには、新しい証明書を作成します。

サンプルのドライバ環境設定ファイル

- ◆ 19 ページのセクション 4.1 「サンプルのドライバ環境設定のインポート」
- ◆ 21 ページのセクション 4.2 「安全な Identity Manager データ転送の設定」
- ◆ 23 ページのセクション 4.3 「同期する属性」
- ◆ 24 ページのセクション 4.4 「パスワード同期」

4.1 サンプルのドライバ環境設定のインポート

- ◆ 19 ページのセクション 4.1.1 「iManager を使用したインポート」
- ◆ 21 ページのセクション 4.1.2 「Identity Manager の Designer を使用したインポート」

4.1.1 iManager を使用したインポート

- 1 新しいドライバを作成するか、環境設定 eDirectory.xml を既存のドライバにインポートします。

Novell iManager で、[Identity Manager ユーティリティ] を選択し、『*Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド*』の「Identity Manager ドライバの管理」で説明するタスクのいずれかを使用します。

- 2 21 ページのセクション 4.2 「安全な Identity Manager データ転送の設定」の指示に従って、ドライバを設定します。

ウィザードで、次の情報を入力するように求められます。

項目	説明
リモートツリーアドレスおよびポート	<p>リモートツリーの Identity Manager サーバの DNS ホスト名または IP アドレス、およびポートを指定します。次に例を示します。</p> <p>151.155.144.23:8196</p> <p>hostname:8196</p>
データフローの設定	<p>双方向：両方の eDirectory™ ツリーが、そのツリー間のデータ同期における信頼されるソースになります。</p> <p>信頼：ローカルツリーが、信頼されるソースになります。</p> <p>サブオーディネイト：ローカルツリーは、信頼されるソースになりません。</p>

項目	説明
環境設定オプション	<p>ミラーリング済み: ローカルおよびリモートツリー間のオブジェクトを階層的に同期します。</p> <p>このオプションを選択する場合は、同期する両方の eDirectory ツリーの設定で同じオプションを使用します。</p> <p>ドライバ環境設定のこのオプションは、ユーザ、グループ、組織、国、および部門の各オブジェクトを同期します。また、他のツリーのサブツリーの構造をミラーリングします。</p> <p>平面: すべてのユーザおよびグループをそれぞれの特定のコンテナに同期します。</p> <p>このオプションは、ユーザオブジェクトとグループオブジェクトを同期して、すべてのユーザを 1 つのコンテナに配置し、すべてのグループを別のコンテナに配置します。</p> <p>通常、このオプションは、他のツリーの [部署] オプション (または同様な環境設定) と組み合わせて使用されます。</p> <p>このオプションでは、ユーザおよびグループを保持するコンテナは作成されません。コンテナは手動で作成する必要があります。</p> <p>部署: ユーザおよびグループを部署 (OU) 別に同期します。</p> <p>このオプションは、ユーザオブジェクトとグループオブジェクトを同期して、管理コンソールの [部署] フィールドに基づいて、すべてのユーザおよびグループを 1 つのコンテナに配置します。</p> <p>通常、この環境設定は、他のツリーの [平面] オプション (または同様な環境設定) と組み合わせて使用されます。</p> <p>このオプションでは、部署ごとのコンテナは作成されません。コンテナは手動で作成する必要があります。作成するコンテナは、インポート中に指定されたコンテナと同じにする必要があります。</p>
リモートベースコンテナ	<p>[ミラーリング済み] オプションのみで使用されます。</p> <p>リモートツリーでの同期用のベースコンテナ (たとえば「Users.MyOrganization」) を指定します。</p>
ベースコンテナ	<p>[ミラーリング済み]、[平面]、[部署] の各オプションで使用されません。</p> <p>ローカルツリーでの同期用のベースコンテナ (たとえば「Users.MyOrganization」) を指定します。</p> <p>[ミラーリング済み] で使用される場合: 前のリモートベースコンテナでミラーリングするローカルベースコンテナ。</p> <p>[平面] で使用される場合: ユーザを配置するコンテナ。</p> <p>[部署] で使用される場合: 部署のコンテナの親。</p>
グループコンテナ	<p>[平面] のみで使用されます。</p> <p>ローカルツリーで、グループを配置する同期用のベースコンテナ (たとえば「Groups.MyOrganization」) を指定します。</p>

4.1.2 Identity Manager の Designer を使用したインポート

eDirectory ドライバの基本的なドライバ環境設定ファイルをインポートするには、Identity Manager の Designer を使用します。この基本的なファイルを使用して、ドライバを正常に機能させるために必要なオブジェクトやポリシーを作成および設定します。

次の手順は、サンプル環境設定ファイルをインポートする方法の 1 つを示しています。

- 1 Designer でプロジェクトを開きます。
- 2 モデラーで、[ドライバセット] オブジェクトを右クリックして、[Add Connected Application (接続アプリケーションの追加)] を選択します。
- 3 ドロップダウンリストから、[eDirectory.xml] を選択して、[実行] をクリックします。
- 4 [Perform Prompt Validation (プロンプト検証の実行)] ウィンドウで、[はい] をクリックします。
- 5 フィールドに入力してドライバを設定します。
各自の環境に特有の情報を指定します。設定については、[19 ページのステップ 2 の表](#)を参照してください。
- 6 パラメータを指定したら、[OK] をクリックしてドライバをインポートします。
- 7 ドライバをカスタマイズしてテストします。
- 8 アイデンティティポールのドライバを展開します。

『[Designer for Identity Manager 3: Administration Guide](#)』の「[Deploying a Project to an Identity Vault](#)」を参照してください。

4.2 安全な Identity Manager データ転送の設定

すべての eDirectory ドライバ通信は、SSL で保護されます。eDirectory システムで安全な Identity Manager データ転送を扱うように設定するには、Novell iManager で NDS to NDS 間ウィザードを実行します。

- ◆ [21 ページのセクション 4.2.1 「eDirectory ドライバセキュリティの理解」](#)
- ◆ [22 ページのセクション 4.2.2 「KMO の設定」](#)

4.2.1 eDirectory ドライバセキュリティの理解

次の項目は、eDirectory ドライバセキュリティを理解する上で役立ちます。

- ◆ ドライバは、SSL ソケットを使用して、認証と安全な接続を提供します。SSL は、デジタル証明書を使用して、SSL 接続される双方が互いに認証できるようにします。さらに、Identity Manager は、機密データの保護管理に Novell Certificate Server 証明書を使用します。
- ◆ ドライバを使用するには、各ツリーで Novell Certificate Server を実行する必要があります。ドライバを含むツリーのいずれかの認証局を使用して、SSL で使用される証明書を発行することをお勧めします。ツリーに認証局がない場合は作成する必要があります。外部の認証局を使用することもできます。
- ◆ Novell では、ドライバが使用する SSL を、Novell Secure Authentication Services (SAS) for eDirectory および NTLS for eDirectory 8.7.x に基づいて実装します。これらをドライ

バが動作しているサーバにインストールし設定する必要があります。通常は、eDirectory によってインストールと設定は自動的に行われます。

- ◆ ドライバセキュリティを設定するには、ドライバを使用して接続される eDirectory ツリーに証明書を作成し参照する必要があります。eDirectory での証明書オブジェクトは、暗号化キーオブジェクト (KMO) と呼ばれます。これは、証明書データ (公開鍵を含む) と、その証明書に関連付けられている秘密鍵の両方を安全に保持するからです。

eDirectory 用の Identity Manager ドライバで使用するために、最小で2つの KMO(ツリーごとに1つの KMO) を作成する必要があります。この節では、ツリーごとに1つの KMO を使用して説明します。

NDS to NDS 間ドライバ証明書ウィザードで KMO を設定します。

- ◆ 詳細については、次を参照してください。
 - ◆ Novell Certificate Server の概要については、[Novell Certificate Server のオンラインマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/crtsrv20/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/crtsrv20/index.html) を参照してください。
 - ◆ CA の詳細と、特にツリーでの認証局の設定については、「[Setting Up Novell PKI Services \(http://www.novell.com/documentation/lg/ndsse/ndsseenu/data/h6172k4q.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/ndsse/ndsseenu/data/h6172k4q.html)」を参照してください。

4.2.2 KMO の設定

アイデンティティボルトシステムを設定して Identity Manager データの安全な転送を処理するには、次の手順を実行します。

- 1 ターゲットサーバのツリー名または IP アドレスを調べます。
- 2 iManager を起動し、最初のツリーを認証します。
- 3 [Identity Manager ユーティリティ] > [NDS to NDS 間ドライバ証明書] の順にクリックします。
- 4 最初の画面で、1つ目のツリーに必要な情報を入力します。

デフォルト値は、iManager を起動したときに認証したツリー内のオブジェクトを使用して提供されます。次の情報を入力するか確認する必要があります。

- ◆ ドライバ DN: eDirectory ドライバの識別名 (たとえば、EDir-Workforce.Employee Provisioning.Services.YourOrgName) を入力します。
 - ◆ ツリー名: ワークフォースツリーの IP アドレスを指定します。
 - ◆ 管理特権を持つアカウントのユーザ名 (Admin など)。
 - ◆ そのユーザのパスワード。
 - ◆ ユーザのコンテキスト (Services.YourOrgName など)。
- 5 [次へ] をクリックします。

ウィザードは、入力された情報を使用して1つ目のツリーを認証し、ドライバ DN を検証し、ドライバがサーバに関連付けられていることを検証します。

- 6 2つ目のツリーに必要な情報を指定します。

最初の画面で、1つ目のツリーに必要な情報を入力します。

次の情報を指定するか確認する必要があります。

- ◆ ドライバ DN: eDirectory ドライバの識別名 (たとえば、EDir-Account.DriverSet.YourOrgName) を入力します。
- ◆ ツリー名: アカウントツリーのツリー名または IP アドレスを入力します。
- ◆ 管理特権を持つアカウントのユーザ名 (Admin など)。
- ◆ そのユーザのパスワード。
- ◆ ユーザのコンテキスト (London.YourOrgName など)。

7 [次へ] をクリックします。

ウィザードは、入力された情報を使用して 2 つ目のツリーを認証し、ドライバ DN を検証し、ドライバがサーバに関連付けられていることを検証します。

8 [概要] ページで情報を確認し、[終了] をクリックします。

これらのツリーに KMO がすでに存在する場合、ウィザードはそれらを削除して次を実行します。

- ◆ 1 つ目のツリーの CA のルート認証局をエクスポートします。
- ◆ KMO オブジェクトを作成します。
- ◆ 証明書署名要求を発行します。
- ◆ 証明書の鍵のペアの名前をドライバの認証 ID に配置します。

4.3 同期する属性

サンプルのドライバ環境設定のフィルタは、次の属性を同期します。

accessCardNumber	Initials (イニシャル)	preferredDeliveryMethod
ACL	instantMessagingID	preferredName
assistant (アシスタント)	internationalISDNNumber	Private Key (秘密鍵)
assistantPhone	Internet EMail Address (インターネット電子メールアドレス)	Public Key (公開鍵)
businessCategory	jackNumber	registeredAddress
city (市町村)	jobCode	roomNumber
CN	L	S
co	Language (言語)	SA
company (社名)	Mailbox ID (メールボックス ID)	Security Equals (同等セキュリティ)
costCenter	Mailbox Location (メールボックスの場所)	Security Flags (セキュリティフラグ)
costCenterDescription	mailstop (メールボックス)	See Also (参照)
departmentNumber	manager (マネージャ)	siteLocation
Description	managerWorkforceID	Surname (名字)
destinationIndicator	mobile (携帯電話)	Telephone Number (電話番号)

directReports	NSCP:employeeNumber	teletexTerminalIdentifier
E-Mail Address (電子メールアドレス)	otherPhoneNumber	telexNumber
employeeStatus	O	Timezone (タイムゾーン)
employeeType	OU	Title (役職)
Equivalent To Me (同等権利保有者)	pager (ポケベル)	tollFreePhoneNumber
Facsimile Telephone Number (Fax 番号)	personalTitle	UID
Full Name (フルネーム)	photo (写真)	uniqueID (固有 ID)
Generational Qualifier (世代識別子)	Physical Delivery Office Name (物理配信局名)	vehicleInformation
Given Name (名)	Postal Address (住所)	workforceID (ワークフォース ID)
Group Membership (グループメンバーシップ)	Postal Code (郵便番号)	x121Address
Higher Privileges (上位の特権)	Postal Office Box (私書箱)	x500UniqueIdentifier

4.4 パスワード同期

この節では、eDirectory 用の Identity Manager ドライバに固有の情報を説明します。また、読者が『*Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド*』の「パスワード同期の実装」に記載されている情報に精通していることを前提としています。

- ドライバシムは、旧リリースと同じように機能します。Identity Manager 2.0 では、新しいポリシーがサンプルのドライバ環境設定に追加され、ユニバーサルパスワードの同期化を含む Identity Manager のパスワード同期をサポートするようになりました。
- 複数のツリーにパスワードポリシーを強制適用する場合は、各ツリーのパスワードポリシーの高度なパスワードルールに互換性があり、パスワードの同期が実行可能であることを確認します。

互換性のないパスワードポリシーを複数の eDirectory ツリーに強制適用し、矛盾が生じた際はパスワードを戻す設定 ([パスワードがパスワードポリシーに従っていない場合、ユーザのパスワードを配布パスワードにリセットすることで接続システムのパスワードポリシーを強制します] オプション) を選択している場合は、アイデンティティボルトの各サーバが、準拠しないパスワードを変更しようとしてループに陥る可能性があります。

パスワードポリシーについては、『[Password Management Administration Guide \(http://www.novell.com/documentation/password_management/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/password_management/index.html)』の「Managing Passwords by Using Password Policies」を参照してください。

- ドライバのフィルタが公開鍵および秘密鍵の属性で [同期] に設定されている場合は、作成したその他の設定に関係なく、NDS のパスワードがツリー間で同期されます。

ユニバーサルパスワードを使用してパスワードを同期する場合は、ユニバーサルパスワードを同期するすべてのクラスの公開鍵および秘密鍵の属性を [無視] に指定したフィルタを両方の eDirectory ドライバに設定していることを確認します。

- ◆ Identity Manager のパスワード同期の機能を既存のドライバ環境設定に追加するには、『[Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド](#)』の「[パスワード同期をサポートするための、既存のドライバ設定のアップグレード](#)」を参照してください。

パスワード同期の新しいポリシーは、ユニバーサルパスワードおよび配布パスワードをサポートするためのものです。NDS のパスワードのみを同期化する場合は、ドライバの環境設定にこれらのポリシーを追加しないでください。NDS パスワードは、これらのポリシーではなく、公開鍵および秘密鍵の属性を使用して、同期化されません。

- ◆ パスワードポリシーでユニバーサルパスワードを有効にし、ユニバーサルパスワードと NDS パスワードの同期の設定を選択していない場合、iManager の [パスワードステータスの確認] タスクは、接続システムでは機能しません。

[パスワードステータスの確認] タスクでは、Identity Manager のユーザのパスワードが、接続システムのパスワードと同期しているかどうかを確認します。

eDirectory 用の Identity Manager ドライバを使用し、[環境設定オプション] タブでユーザのパスワードポリシーをユニバーサルパスワードが更新されたときに NDS パスワードを更新しないように指定している場合は、そのユーザの [パスワードステータスの確認] タスクでは、常に、パスワードが同期されていないと表示されます。接続システムの Identity Manager の配布パスワードおよびユニバーサルパスワードが実際は同じ場合でも、パスワードステータスは、常に、同期されていないと表示されます。

これは、このときにアイデンティティボルトのパスワード確認機能が、NMAST™ を経由してユニバーサルパスワードを参照する代わりに、NDS パスワードをチェックするからです。

デフォルトでは、NDS パスワードは、ユニバーサルパスワードがパスワードポリシーで更新されるときに更新されます。このオプションを選択している場合は、接続システムでもパスワードステータスの確認が正確に実行されます。

- ◆ ドライバを使用するには、ドライバをホストする各サーバで Novell® Certificate Server™ を実行する必要があります。また、SSL 暗号化を機能させるために認証局 (CA) を作成する必要があります。SSL に使用される証明書は、そのドライバを含むツリーのいずれかの CA で発行することをお勧めします。ツリーに認証局がない場合は作成します。外部の認証局を使用することもできます。

認証局の作成および Certificate Server の設定については、[21 ページのセクション 4.2 「安全な Identity Manager データ転送の設定」](#)を参照してください。

ドライバの設定

- ◆ 27 ページの「ドライバオブジェクトのプロパティの設定」
- ◆ 29 ページの「フィルタの設定」
- ◆ 30 ページの「発行者チャンネルのルールの設定」
- ◆ 30 ページの「ドライバオブジェクトパスワードの使用」

パスワード同期については、24 ページの「パスワード同期」を参照してください。

5.1 ドライバオブジェクトのプロパティの設定

通常、ドライバのプロパティは、ドライバ環境設定ファイルをインポートし、証明書ウィザードを実行するときに、自動的に設定されます。

プロパティを手動で設定するには、次の手順を実行します。

- 1 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順にクリックします。
- 2 eDirectory™ ドライバを含むドライバセットを探し、そのドライバのアイコンをクリックします。
- 3 [Identity Manager ドライバの概要] ページで、ドライバ環境設定を表示する eDirectory ドライバオブジェクトをクリックします。
- 4 [ドライバモジュール] セクションを探し、[Java] を選択します。

ドライバモジュール

- java
- ネイティブ
- リモートローダに接続

名前:

- 5 [名前] 編集ボックスに、次の eDirectory ドライバ Java クラス名を入力します。

`com.novell.nds.dirxml.driver.nds.DriverShimImpl`

- 6 パラメータを設定します。

5.1.1 認証パラメータ

認証

us-linux-srv.novell

認証ID:	<input type="text"/>
認証コンテキスト:	<input type="text" value="10.2.30.165:8196"/>
リモートローダ接続パラメータ:	<input type="text" value="<リモートローダではありません>"/>
ドライバのキャッシュ上限(KB単位):	<input type="text" value="0"/>

アプリケーションパスワード: [パスワードの設定](#)

リモートローダパスワード: [リモートローダで](#)

アプリケーションパスワード

パスワードの入力:

パスワードの再入力:

起動オプション

us-linux-srv.novell

自動スタート
 手動
 使用不可

ソースサーバがターゲットサーバと通信できるようにするための情報を入力します。

認証 ID

ソースサーバおよびターゲットサーバでパスワードなどの機密情報を交換する場合は、NDS2NDS eDirectory Certificates Wizard (NDS to NDS 間 eDirectory 証明書ウィザード) を実行します。このウィザードは、暗号化キーオブジェクト (KMO) を作成し、[認証 ID] フィールドに適切な KMO 名を配置します。

KMO は、次のようなセキュアソケットレイヤ (SSL) 証明書です。



認証コンテキスト

[認証コンテキスト] フィールドに、ターゲットサーバのホスト名または IP アドレス、および 10 進数値のポート番号 (187.168.1.1:8196 など) を入力します。

注: 「java.net.ConnectException: Connection Refused (java.net.ConnectException: 接続が拒否されました)」と表示された場合は、リモート側でポート接続を利用できないことを示しています。このエラーは、次のいずれかの理由が原因と考えられます。

- ◆ リモート側のドライバが実行されていない。
- ◆ ドライバは実行されているが、別のポートを使用するように設定されている。

リモートローダ接続パラメータ

リモートローダオプションは、eDirectory 用の Identity Manager ドライバでは必要ありません(したがって、使用されません)。

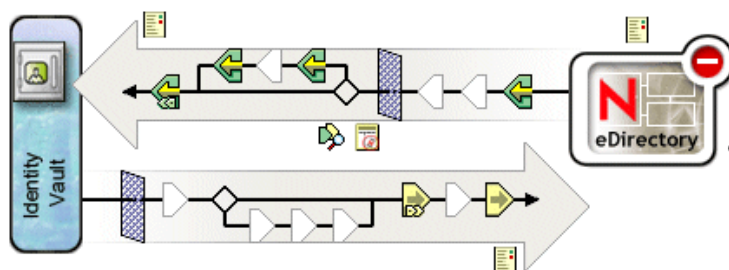
ドライバのキャッシュ上限

Novell のサポート担当者からの指示があった場合を除いて、このフィールドは変更しないでください。

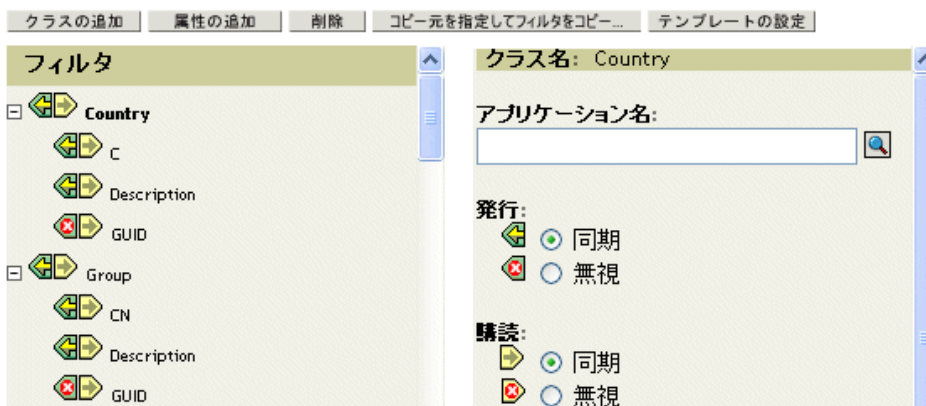
5.2 フィルタの設定

1つのフィルタで、発行者と購読者の両方のチャンネルを制御します。フィルタを変更して、Identity Manager の処理で使用可能にするオブジェクトクラスおよび属性を含める必要があります。フィルタを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順にクリックします。
- 2 eDirectory ドライバを含むドライバセットを探し、そのドライバのアイコンをクリックして、[Identity Manager ドライバの概要] ページを表示します。
- 3 発行者チャンネルのフィルタをクリックします。



- 4 ドライバをカスタマイズします。



この例では、[国] および [グループ] がクラスです。クラスを追加するには、[Add Class (クラスの追加)] をクリックし、クラスを選択します。クラスを削除するには、[削除] をクリックします。

この例では、[CN] が [グループ] クラスの属性です。属性を追加するには、クラスを選択し、[属性の追加] をクリックし、属性を選択します。

クラスまたは属性を変更するには、右側のペインでオプションを選択します。この例では、発行者と購読者のチャンネルで国属性が同期されます。ただし、GUID 属性は発行者チャンネルでは同期されません。

GUID 属性を同期するには、この属性を選択し、[発行] セクションの [同期] をクリックします。

GUID 属性は、購読者チャンネルで同期するように設定されているすべてのクラスで必須です。

一般に、GUID 属性を除き、一方のツリーの購読者チャンネルのフィルタは、もう一方のツリーの発行者チャンネルのフィルタと一致する必要があります。また、その逆も同様です。

5 [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。

5.3 発行者チャンネルのルールの設定

ドライバのルールは、通常、購読者オブジェクトではなく発行者オブジェクトにだけ配置します。一致および配置のポリシーは、購読者チャンネルでは正しく動作できません。これは、購読者チャンネルが主として他のツリーの発行者チャンネルのイベントをソース (情報源) として機能するからです。

購読者チャンネルには、不要なデータがチャンネルで送信されないように、イベント変換または作成ポリシーを配置することが望ましい場合があります。『[Identity Manager 3.0 インストールガイド](#)』の「[複数のサーバにおける、スコープフィルタリングを使用したユーザの管理](#)」を参照してください。

5.4 ドライバオブジェクトパスワードの使用

SSL を使用するために必要な必須の証明書に加えて、セキュリティを強化するために、一方のツリーの購読者チャンネルがリモートツリーの発行者チャンネルを認証するように、ドライバを設定する必要があります。各ツリーのドライバオブジェクトパスワードは、他方のツリーのアプリケーションパスワードと一致するように設定する必要があります。

ツリーの Identity Manager のドライバオブジェクトのパスワードを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順にクリックします。
- 2 eDirectory ドライバを含むドライバセットを探し、そのドライバのアイコンをクリックします。
- 3 [Identity Manager ドライバの概要] ページで、eDirectory ドライバオブジェクトをクリックします。
- 4 [ドライバ環境設定] を選択します。

ドロップダウンリストから選択するか、タブを選択します (iManager のバージョンおよび使用環境によって操作が異なります)。

- 5 [ドライバオブジェクトパスワード] セクションに移動します。

ドライバオブジェクトパスワード

- 6 ドライバオブジェクトパスワードを入力します。

重要: ドライバオブジェクトパスワードは、いったん設定すると削除できません。

- 7 [認証] セクションに、アプリケーションパスワードを入力します。

認証

- 8 [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。

5.5 オブジェクトの移行またはコピー

iManager にはコピー機能はありませんが、[eDirectory からの移行] オプションを使用して、ある eDirectory ツリーから別のツリーにオブジェクトをコピーできます。コピーの範囲は、ドライバのポリシーによって決まります。たとえば、ドライバに適用するポリシーによっては、ある eDirectory ツリーから別のツリーにすべての属性をコピー (同期) できます。このような「コピー」では、すべての属性をツリー間で同期し、移行中にオブジェクトを同じ場所に配置し、さらにそのときデータを変更しないようにする必要があります。

タイムスタンプは常に再同期操作と関連付けられます。再同期操作では、すでに関連付けられている (すでに同期されている) オブジェクトで、そのタイムスタンプ以降に変更されているものを探します。また、そのタイムスタンプ後に作成されたオブジェクトも探します。[Resync (再同期)] をクリックすると、新しいユーザが同期されます。

[Resync (再同期)] オプションを使用してオブジェクトをコピーする代わりに、[eDirectory への移行] オプションを使用できます。このオプションでは、オブジェクトのリストを指定して同期できます。リスト内の各オブジェクトについて、iManager はディレクトリにデータを書き込みます。Identity Manager は、変更を記録し、リストされているオブジェクトの同期処理を開始します。

- 1 ソースの eDirectory ツリーのサーバおよびターゲットの eDirectory ツリーのサーバに Identity Manager 3 がインストールされていることを確認します。
- 2 ソースツリーのサーバで eDirectory 用の Identity Manager ドライバを設定します。
eDirectory ドライバの [認証] ペインで、ターゲットサーバの名前または IP アドレス、およびポートを入力します。27 ページのセクション 5.1 「ドライバオブジェクトのプロパティの設定」を参照してください。
移行オプションの [平面]、[ミラーリング済み]、または [部署] を選択します。ソースツリーからターゲットツリーにデータを移行するときに、サブテナおよび名前を含むディレクトリ構造を保存するには、[ミラーリング済み] を選択します。
- 3 ターゲットツリーのサーバで eDirectory 用の Identity Manager ドライバを設定します。
[認証] ペインで、ソースサーバの名前または IP アドレス、およびポートを入力します。
- 4 2 つのツリー間で SSL を設定します。
NDS2NDS Wizard (NDS to NDS 間ウィザード) を使用して、両方のツリーに KMO 証明書を作成します。22 ページのセクション 4.2.2 「KMO の設定」を参照してください。
NDS2NDS Wizard (NDS to NDS 間ウィザード) を起動するには、[Identity Manager ユーティリティ] > [NDS to NDS 間ドライバ証明書] の順に選択します。
- 5 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順にクリックし、ドライバをクリックします。
- 6 [eDirectory からの移行] を選択します。



eDirectory 間の移行で、ソースツリーからターゲットツリーに移行します。

[eDirectory への移行] オプションは、eDirectory 用の Identity Manager ドライバでは機能しません。

- 7 オブジェクトを選択します。
たとえば、ユーザオブジェクトまたはテナオブジェクトを選択します。オブジェクトは検索または参照できます。また、複数のオブジェクトを追加することもできます。
- 8 [OK] を 2 回クリックします。
クライアント (iManager など) が、リスト内の各オブジェクトに値を書き込みます。この変更イベントによって、Identity Manager はターゲットツリーにデータをプッシュします。

最新のマニュアル

A

この節には、eDirectory 用の Identity Manager ドライバについての新しい情報および更新情報が含まれています。

マニュアルは、HTML と PDF の 2 つの形式で Web 上に提供されています。HTML および PDF のマニュアルはいずれもこの節に挙げるマニュアルの変更内容を反映した最新の状態になっています。

現在お持ちの PDF マニュアルが最新かどうかを確認する必要がある場合は、PDF ファイルの発行日を確認します。日付はタイトルページの次の「保証と著作権」の節にあります。

A.1 2006 年 5 月 8 日

表 A-1 2006 年 5 月 8 日に行われた変更

場所	変更内容
7 ページのセクション 2.4 「ドライバシムのインストール」	以下を明確化。 <ul style="list-style-type: none">◆ この節は eDirectory がすでにサーバにインストールされていることを前提としている。◆ この節では eDirectory ドライバをサーバに追加する方法を説明する。